

第 20 回クリーンセンター連絡協議会 要点録

【日 時】令和 8 年 2 月 14 日(土) 午前 10 時 00 分～10 時 48 分

【場 所】プラスチック類資源化施設 多目的室

【出席者】

会 長：新石自治会

委 員：新石自治会 2 名 新井自治会 2 名 落川上自治会 2 名
百草園団地自治会 0 名 百草園自治会 1 名

事務局：日野市 4 名（環境共生部長兼環境共生部クリーンセンター長、施設課長、ごみゼロ推進課長、ごみゼロ推進課係長）

国分寺市 2 名（建設環境部長、環境対策課清掃施設担当課長）

小金井市 1 名（ごみ対策課長）

浅川清流環境組合 5 名（事務局長、事業課長、事業課事業係長、総務課長、総務課総務係長）

【傍聴者】 1 名

【配付資料】

- ・次第 「第 20 回クリーンセンター連絡協議会 次第」
- ・資料 1 「プラスチック類資源化施設運転状況」
- ・資料 2 「可燃ごみ処理施設運転状況」
- ・資料 3 「環境定点測定結果」
- ・資料 4 「次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について」

【次 第】

1 開会

2 議事

(1) 日野市より

①プラスチック類資源化施設運転状況

<説明内容>

日野市より資料 1 に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員)：資料 1 にはペットボトルは入っているのか。

(日野市)：こちらの資料は、プラスチック類のみとなっておりペットボトルは入っていない。プラスチック類とペットボトルは家庭からの収集日が異なっているように集計や処理は別に行っている。ペットボトルの処理は可燃ごみ処理施設である浅川清流環境組合より川下にあるペットボトル圧縮処理施設で行っている。ペットボトルは全て品質が均一で再利用しやすく価値が高いため、処理費用を払って処理してもらうの

ではなく、資源として売却している。

(2) 浅川清流環境組合より

①可燃ごみ処理施設運転状況について

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料2に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 1 ページの搬入量の合計と 3 ページの廃棄物の処理量の合計の違いは何か。

(組 合) : 可燃ごみの搬入量と焼却量は異なる。当施設は各焼却炉一日で 114 t を上限に処理が可能で搬入量に対し少ない処理となっている。

(委 員) : 直近 2 年の夏の気温が高くなっているが、以前とごみ量の違いはあるのか。

(組 合) : 夏季期間でのごみ量の比較はしていないが、例年夏季のごみ量は多い傾向にある。気温というよりも雨量の方がより影響があるのではないかと思う。また、施設稼働当初処理量は 6 万 t 以上あった中、令和 6 年度は 5 万 8 千 t であり、年間通せばごみ量は減っている。さらには、構成 3 市の人口は増加傾向にある中、一人当たりのごみ量は減っている。

②環境定点測定結果

<説明内容>

浅川清流環境組合より資料3に基づき説明を行った。

<質疑・応答>

なし

3 その他

(1) 次期可燃ごみ処理施設建設に向けた課題等の整理について

<説明内容>

国分寺市より資料4に基づき説明を行うとともに、各市のごみ減量に向けた取組みについて説明を行った。

<質疑・応答>

(委 員) : 日野市への質問。構成 2 市では実施していて、日野市がやっていない事業はあるか。また、日野市の新たな取組みを紹介してほしい。

(日野市) : 国分寺市、小金井市は生ごみたい肥化事業を拠点収集という形で実施している。日野市としては、構成 2 市と同じやり方はできていないが、市民団体と連携し段ボールコンポストの普及啓発を実施している。構成 2 市と同様の事業を実施した場合、たい肥ができた後の使い方が課題としてある。農家の方に利用してもらうにしても塩分濃度等で実際使用してもらえるか等研究しているところである。

可燃ごみの組成分析を実施した結果、生ごみ、おむつの占める割合が高いため、こちらを減量リサイクルすることがごみの減量に効果がある。そのため、令和9年度から始まる日野市長期総合計画を令和8年度策定するため、新たな策を盛り込んでいければと考えている。

日野市の新たな取組みとしては、フードドライブ事業の拡大ということで、石田環境プラザで実施しているが、日野市役所等拠点の拡大を検討していきたい。

(委員)：小金井市への質問。令和7年度からの生ごみたい肥化事業の状況を教えてください。また、家庭からの生ごみ処理の実施方法も説明願いたい。

(小金井市)：八王子市の民間施設にて生ごみたい肥化処理を実施していて順調に推移している。家庭からの生ごみ処理実施方法は、これまで小中学校に大型生ごみ乾燥処理機を置き、給食の食べ残しや調理くずを処理していたが、土曜日は給食がないため、一般家庭の方にボランティアで生ごみを学校に持ち込んでもらい乾燥処理をしていた。しかし、生ごみ処理機の経年劣化により機器更新の必要となったが、機器更新ではなく、民間処理施設への処理に移行することになった。その時に市民から、家庭からの生ごみもモデル事業として利用してほしいという申し出があった。回収の方法としては、市が18ℓの大き目の蓋つきの抗酸化バケツを用意し、そこに生ごみを入れて収集日に玄関に出してもらい、収集業者に回収してもらう。問題点としては、夏場の臭いを心配していたが、蓋を開けて回収する時多少臭いは出るが、ごみの減量に関心の高い方々なので問題視はされていない。現在80世帯の方に週1回の収集をご協力いただいている。1台で収集をしているが、運送量や回収時間に余裕があるため、令和8年度は、1拠点、20世帯程度増やし実施を予定。また、現在は戸建て限定で実施しているが、集合住宅を対象にしたモデル事業が実施できないか調整している。

(委員)：国分寺市への質問。紹介できる事業はあるか。

(国分寺市)：現在、生ごみ拠点収集を7拠点で実施しているが、令和8年度も1拠点増やすよう検討している。また、ジモティースポットを設置できないか検討していきたい。

(委員)：日野市へ質問。公園脇で畑をやっている方が落ち葉を活用していたが、日野市より、落ち葉はたい肥化に使用するため持っていかないでほしいとのこと。実際どうなのか。また、枝等のクリーンセンターへの持込みは変更ないか。

(日野市)：担当部署は、緑と清流課になるが、第3土曜日のクリーンセンターへの持込みは変更ない。

(委員)：次期可燃ごみ処理施設について

(日野市)：構成3市として、引き続きごみの総量を減らす取組みを3市課長職間で検討中。

4 閉会

次回会議（予定） 令和8年7月8日（水） 18時30分～
プラスチック類資源化施設 多目的室

以上